

黒田精工株式会社

(証券コード：7726)

2022年3月期 決算補足説明資料

<目次>

1. 2022年3月期 連結決算概要
2. 2023年3月期 通期連結業績予想・配当予想

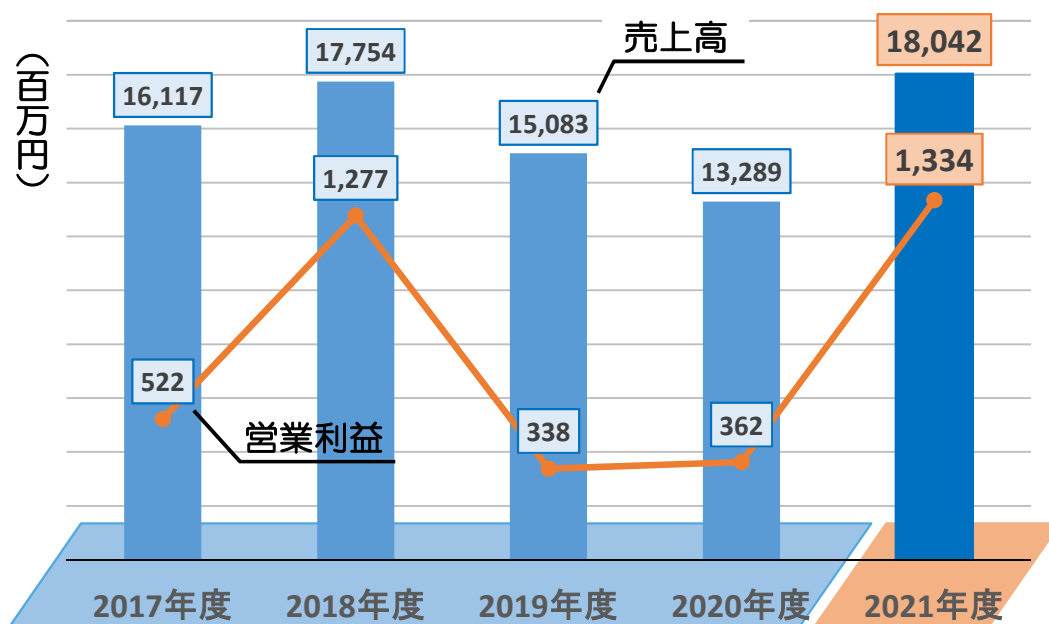
2022年5月16日

1. 2022年3月期 連結決算概要

2022年3月期 連結決算概要

KURODA

(単位：百万円)	前年同期 (2021年3月期)	期初業績予想 (21年5月14日付)	2021年度 (2022年3月期)	増減 (前年同期比)	増減 (期初予想比)
受注高	13,645	-	19,989	+6,343	-
売上高	13,289	16,800	18,042	+4,753	+1,242
営業利益	362	700	1,334	+972	+634
経常利益	357	550	1,437	+1,079	+887
親会社株主に帰属 する当期純利益	126	340	563	+437	+223



- ◆ 国内海外ともに主要顧客の半導体・各種分析関連装置市場の好調に加え、自動車／家電向け金型システム商品の需要が好調に推移し受注高は大幅に増加。
- ◆ 売上高は駆動システムの増産と金型システムの売上増が寄与し18,042百万円と前年同期比で大幅増収。利益面でも、増収効果と利益率改善により営業利益1,334百万円、経常利益1,437百万円と前年同期比で大幅増益。
- ◆ 一方、コロナ禍の影響等によるドイツ子会社の2期連続赤字を受け、同社固定資産の減損損失380百万円を計上したことから、親会社株主に帰属する当期純利益は563百万円となった。

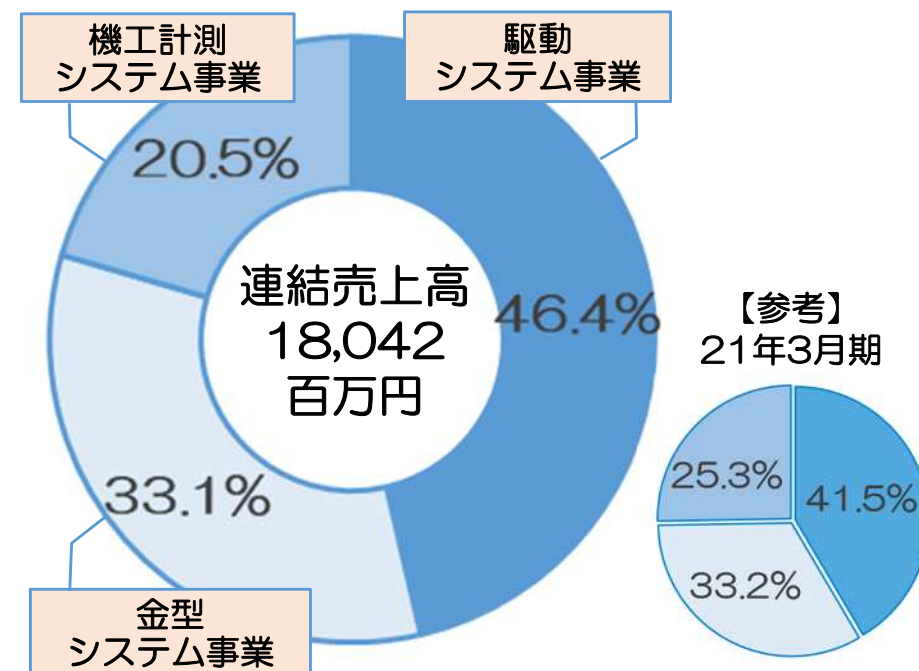
セグメント別概要

単位：百万円	受注高 (前年同期比増減)	売上高 (前年同期比増減)	営業損益 (前年同期比増減)
駆動システム事業	10,004 (+4,207)	8,370 (+2,843)	1,137 (+1,038)
金型システム事業	5,965 (+1,403)	5,985 (+1,570)	274 (+48)
機工計測システム事業	4,032 (+732)	3,699 (+338)	△52 (△116)

◆駆動： 主要市場の半導体製造装置／各種分析関連装置分野向けを中心に受注高は高水準で推移。生産体制の増強により売上高、営業利益が順調に伸び、前年同期比で増収増益。

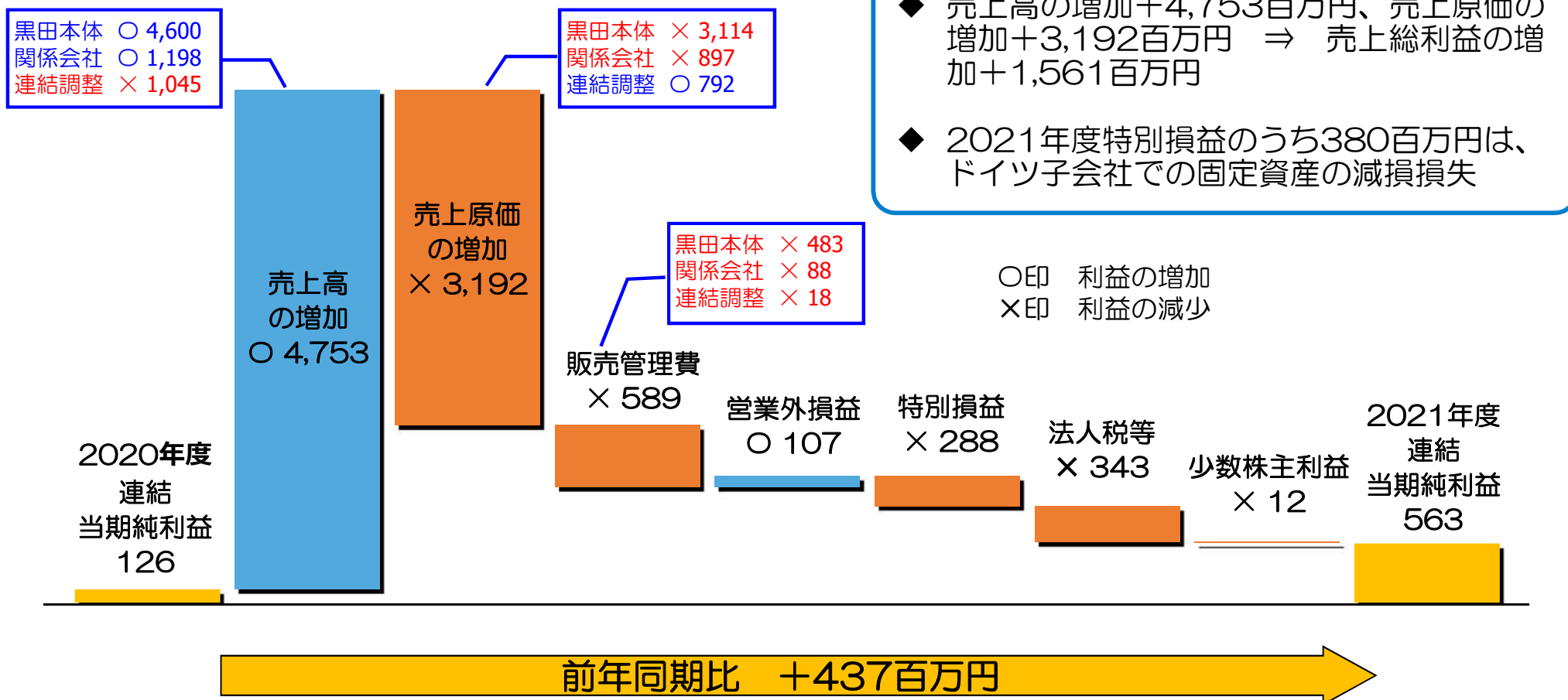
◆金型： 車載用モーター向け金型／家電用モーターコア等で受注高、売上高ともに増加。期前半に東南アジアでのコロナ禍の影響を受けたが、第3Q以降で挽回し、通期では営業利益274百万円と、前年同期比で増収増益を果たした。

◆機工計測： 工作機械等システム商品の緩やかな市況回復を受け、受注高・売上高は前年同期を上回るも、収益面では固定費の増加、自動車業界減産の影響を受けた連結子会社の不振等により、営業損失52百万円を計上。



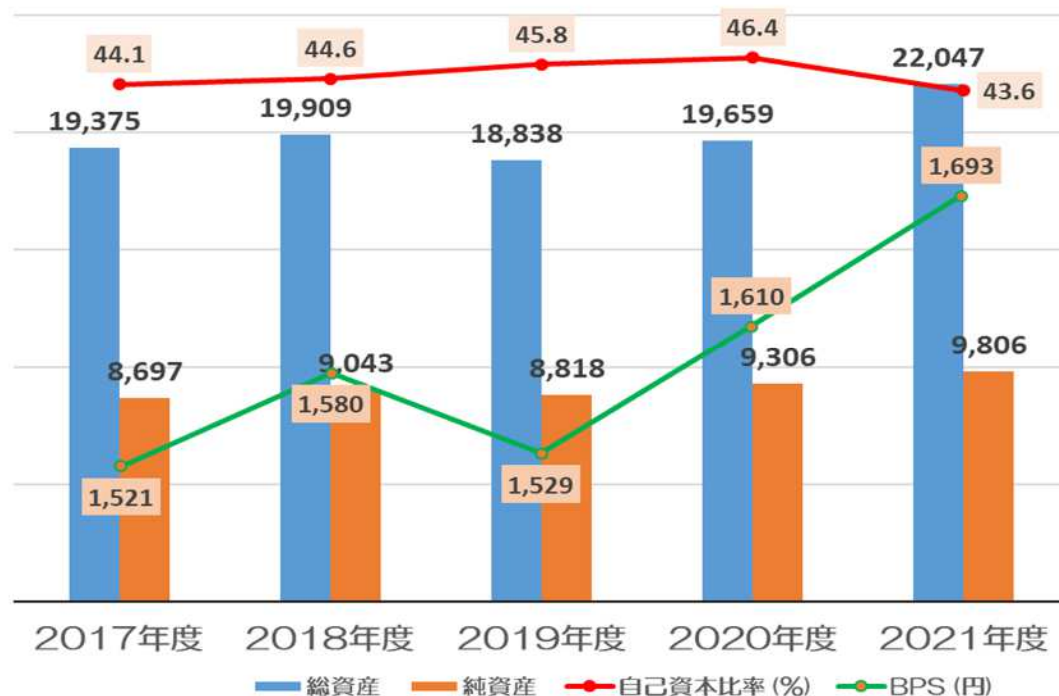
前年同期比 連結当期純利益の変動要因

(単位：百万円)



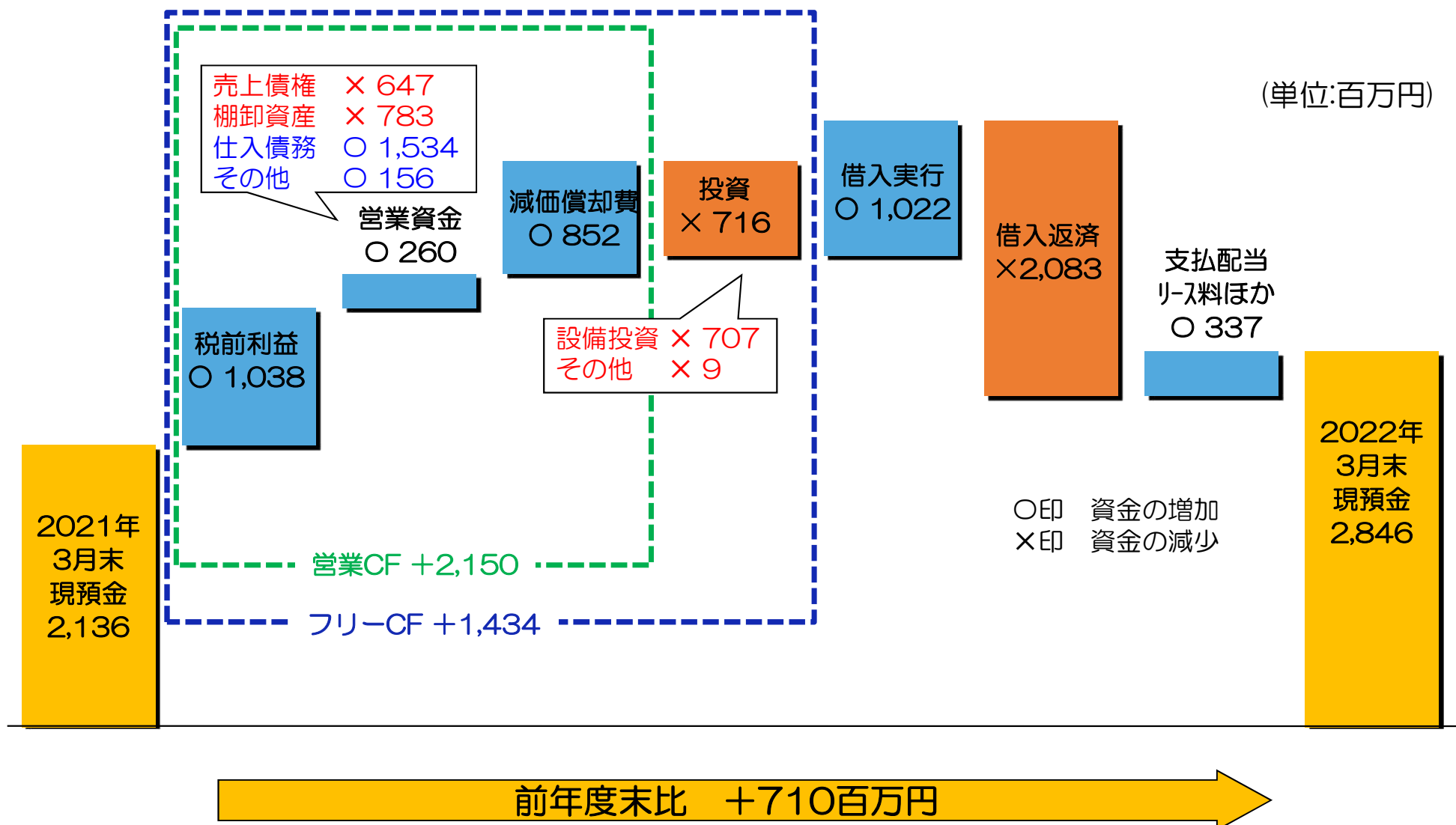
連結貸借対照表

	2020年度 (2021年3月期)	2021年度 (2022年3月期)	増減
総資産 (百万円)	19,659	22,047	+2,388
純資産 (百万円)	9,306	9,806	+499
負債合計額 (百万円)	10,352	12,241	+1,888
自己資本比率 (%)	46.4	43.6	△2.8 P
1株あたり純資産(BPS) (円)	1,610	1,693	+83



- ◆ 総資産：前年度末比+2,388百万円の増加
⇒ 流動資産+2,600百万円（現預金、棚卸資産の増加等）
固定資産△211百万円（建設仮勘定、投資有価証券の減少等）
- ◆ 純資産：前年度末比+499百万円の増加
⇒ 株主資本+518百万円（利益剰余金の増加等）、
その他包括利益累計額△55百万円（その他有価証券評価差額金等の減少）
- ◆ 負債合計額：前年度末比1,888百万円の増加
⇒ 流動負債+1,542百万円（仕入債務の増加）、
固定負債+346百万円（リース債務の増加）
- ◆ 自己資本比率：43.6% 前年度末比△2.8P

前年度末比 連結キャッシュ・フローの変動要因



中期計画(Vision2025)の進捗状況

【経営指標】

Vision 2025		2022年3月期 連結実績	判定
売上高	168億円～230億円	180億円	◎
営業利益率	4%超～8%	7.4%	◎
ROE	5%超～10%	6.0%	○
自己資本比率	45%以上	43.6%	△
配当性向	25%～35%	25.2% (配当25円/1株)	○
総投資額	計画期間(5年)中 73億円程度の規模	累積 約13億円	—

2. 2023年3月期 通期連結業績予想、配当予想

2023年3月期通期連結業績予想・配当予想

KURODA

注：単位記載の無い項目は百万円単位	2021年度 (2022年3月期)	2022年度 (2023年3月期)	前期比増減率
売上高	18,042	20,000	10.8%
営業利益	1,334	1,350	1.1%
経常利益	1,437	1,250	△16.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	563	700	24.2%
1株あたり年間配当金（予定額）	25円00銭	31円00銭	—
配当性向（%）	25.2%	25.1%	—

◆ 主要顧客である半導体・各種分析関連装置市場に加えて自動車、家電向け金型システム商品の需要が引き続き好調に推移していることから、2023年3月期の連結業績は、売上高20,000百万円を見込む。一方利益面では、各種部材価格や物流コストの上昇、エネルギー価格の高騰、加えて欧州経済減速による子会社業績への影響等を織り込み、営業利益1,350百万円、経常利益1,250百万円、親会社株主に帰属する当期純利益700百万円を見込む。

◆ 1株あたり年間配当金は、2021年度：25円／株、2022年度：31円／株 を予定。

セグメント	見通し、計画
駆動システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主力の半導体製造装置・分析関連装置分野向けボールねじを中心に前期に引き続き需要は旺盛。高水準の受注継続を見込む。 ◆ 中期投資計画の前倒し実行等により、生産体制の更なる強化を図り、納期短縮と売上増加に繋げる計画。 ◆ 欧州経済の減速、工場移転に伴うドイツ子会社の一時的な損失拡大により、業績に影響を受ける懸念。
金型システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主力の車載用モーターコア金型およびモーターコア製品は、前期に引き続き好調な需要を維持する見込み。 ◆ 長野工場の拡張など新たな設備投資、海外提携先とのビジネス拡大と国内提携戦略の拡大により、金型システムおよびモーターコア製品の供給能力の増強を段階的に図る計画。 ◆ 増産体制構築完了まで一時的には外注コスト等の増加が発生。また、半導体等の部材不足、ロックダウンによる地域的な物流の混乱等で当社側又は顧客側の生産計画に変更が生じ、売上に影響を及ぼす懸念。
機工計測システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 工作機械、要素機器ともに需要は緩やかに回復の傾向が続いており、受注高の回復が見込める。 ◆ 海外の販売・サービス網の強化、自動化設備や産業用ロボット分野など国内外新市場の開拓・深耕を計画。 ◆ 電装部品等の調達難、輸送費の高騰、円安の状況は当面の間継続すると見られ、生産コストの上昇に繋がる懸念。

- ◆ 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- ◆ 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- ◆ 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044 - 555 - 3800

ホームページ：<https://www.kuroda-precision.co.jp>